

原水爆禁止 2012 年世界大会・広島と 2012 年平和行進の報告

2012 年 12 月 八戸原水爆禁止の会

原水爆禁止 2012 年世界大会・広島

八戸医療生協(労組と協同)佐々木美音緒

初めて参加しました。広島に行くこと自体が初めての経験で、行く前から楽しみにしていました。開会総会、関連企画、閉会総会と参加する中でやはり少なくない世界中の人々が核兵器を無くそう、広島・長崎の悲劇を繰り返すまじと考え、行動していることを再確認できて、勇気をもらいました。

「核抑止力」という考えには決して同調できません。67年前のあんな悲劇をおこすことが確実な、それ以上の悲劇をおこすことが確実なものを持つことで平和が保たれているなんて考え、それは絶対認められません。「核兵器のない平和な未来をつくろう」としている多くの人と集えたことは幸せでした。

分科会は動く分科会 17-A に参加しました。

3時間みっちり歩くことになりましたが、昼食会場に戻るまでは、疲れを感じませんでした。(暑いことは感じていましたが・・・)

原爆投下の当日から、1週間、十日、1カ月と時間が経過していく中での被爆者、その家族の苦しみのいくらかでも感じとることができたのかもしれませんが、到底及ばないでしょう。3歳の伸ちゃんの感じた熱さや、幼い兄弟たちが放射能に汚染された市内を、両親を求めてさ迷い歩いたことを思うと激しい憤りを時の為政者に覚えます。二度とあのような惨劇を繰り返させない、安心な世界をつくるために努力を続けたいと思いました。

また、せめて県の代表団の方々とはもう少し時間を持って交流などをしたかったなあと思いました。連日の過密スケジュールはかなり老体には響きました。

県教組・三八支部 工藤 美子

日本各地区から、世界から熱い思いをもってたくさんの方々が参加され、熱い広島がさらに熱くなったように感じました。

広島・長崎はテレビの映像としては知っていたけれど、自分からいくということには考えが及びませんでした。今回、広島の世界大会に参加することができ、長崎にも機会があれば行きたいと思っています。

平和が続くことを願っています。

分科会は第14分科会「映像のひろば」に参加しました。「歩く」の製作者である山口逸郎さんが助言者として参加されていました。80才の今、東京から広島まで行進していらっしやったということを知り、感動しました。

お世話になりました。本当にありがとうございました。

県教組三八支部 千葉久美子

初めて参加させていただきました。三十数年前と二十数年前に続いて3回目の広島です(原水禁世界大会への参加は初めて)。

参加者名簿に年齢が載っていたのを見てびっくり、みんな若くてびっくり。交流会は飛行機組のみなさんはもうすでにみんな打ち解けているようでしたが、新幹線組は勝手がわからず、ちょっとどきどきでした。4日の大中さんのガイド付きの資料館・遺構めぐりは、ひとりだと見損なってしまったもの、また、ああこういう見方をするのかなど、気づかされました。よかったです。開会総会が終わってから、もう一度ひとりで回ってみました。

開会総会はテレビのニュースなどで見たことがありましたが、本当に日本全国から集まってくるのですね。海外の方の生の言葉、乏しい英語の知識でも所々わかる部分もあつたりして、耳を澄まして聞いていました。ただ、この会場にたくさんの人が…と思っても、日本人全体からみると一握りなのかもしれないとも思います。原発の問題にしても、オスプレイの問題にしても自分の結論は？そのために何をする？…、難しいです。熱心に活動している人から見ると、かなり緩いんだらうと思います。

分科会は「核兵器と原発—放射線被害の根絶のために」に参加しましたが、仕事の関係で1時間ぐらいしか参加できませんでした。新潟大学名誉教授の立石さんの話を途中まで。地震活動期の話…最近また地震が増えているようで不気味。崩れかけている福島原発にまた強い地震が来たらどうなるのかと。

「原発は『停止していても危険』のところまで話が聞けなくて残念でした。原発を稼働させなければそれでいいと簡単に考えている人もいるので、この話はぜひ聞きたかったのですが…。

合間の時間を見つけて、世界平和記念聖堂、広島城、本川小学校平和資料館などにも行くことができました。長崎にはまだ行ったことがないので、いつか長崎にも行ってみたいと思っています。

高教組・三八支部 武田 郁子

今回、初めて参加させていただきました。

2日目の第10分科会、シンポジウム「核兵器・原発 私たちの未来—原発からの撤退、自然エネルギーを考える」に参加してきました。私自身、3・11までは原発は安全ではないということを知ってはいても、危険という意味を理解できずにいたような気がします。命や健康が緩慢におびやかされる事のほかに、住む場所を失うこと、職を失うこと、地域のつながりを失うことなどなど、数え上げたらきりがなほどの危険がありました。そういった過ちを二度と起こさないために私ができることは何なのかを、より考えるようになりましたし、私ができる平和教育について考えさせられました。戦争や核兵器の恐さを伝えていくことも一つですが、これからの新しいエネルギーについて子ども達と一緒に考えていくことが、今の私には身の丈に合った学習になるのかなと考えています。

今年、私の受け持つクラスでは、一学期から「私たちの生活と電気エネルギー」という内容で学習をおこなっています。生徒達は、「バイオマス発電」や「地熱発電」など新しいエネルギーに興味を持ち、そのメリットやデメリットについて調べました。休み明けの遠足では、「太陽光発電所」にも見学に行き、とても良い活動になりました。ただ、生徒達は、今の日本のエネルギーに事情についてあまり興味がありません。新聞やニュースをあまり見ないようです。この子達が新聞を読むこと、ニュースを見ることを私の平和教育の第一歩として、取り組んでいきたいと考えています。

私が今回の参加で最も印象的だったことの一つは、「8月6日の広島を過ごした」という事実でした。この日も天気が良くて明るく、緑や空の青が鮮やかで、蝉が鳴き、木々には南の地方らしい色鮮やかな花が咲き、川面が光り、平和そのものの光景でした。8時15分の鐘が鳴る頃に、それらの光景は変わってしまったんだな、この辺りは苦しむ人や死体でいっぱいだったのだなと、平和な景色を見ながら想像しました。平和記念式典会場から、集会場に向かう時も、閉会集会が終わって、昼過ぎにバスに乗る時も、「67年前の今頃はきっとまだまだ苦しんで歩く人たちがこの辺りにいたのだろうか」とずっと周りの景色を見ながら考えていました。当時の広島の方々が8月6日をただ一日過ごすことさえも長く、苦しかったことを想像しました。

私が小学生だった頃、原爆が落とされた広島や長崎の話が良くありました。何回も何回も聞いて知っているつもりでしたが、実際にその場に立つことで解ること、追体験できることがありました。それは、子どもの頃から原爆について知らされていたからこそ、多くの想像力を巡らすことができたからともいえます。

夏休み明けに、「8月6日は何の日？」と子ども達に聞いてみましたが、みんなわかりませんでした。私は、戦争を知らない子ども達の子供ですが、さらにそれを子ども達に伝えていかなければいけないのだと痛感しました。

【世界大会報告会で佐々木美音緒さんが使用した PowerPoint スライドの抜粋】



8月3日の早朝、八戸を発ち、一路広島へ。途中、大宮前で前の便の車両異常があり、緊急停車。その影響を受けて40分遅れて東京駅に到着。乗り継ぎの列車が全てアウト。東京駅で乗り継ぎの手続きの長蛇の列に並び、再び広島を目指しました。幸い、後続の早い便が取れ、広島のホテルでの青森県団との合流には間に合いました。



この建物の正式な名称は、広島県産業奨励館といひます。開館したのは1915年で、その30年後の8月6日に上空約600mでさく裂した原子爆弾で屋根は抜け、猛烈な爆風にさらされながら倒壊を免れた貴重な原爆遺跡です。戦争末期は、内務省土木出張所や木材関係の統制組合事務所になっており、当時の職員は、全員死亡したそうですが、人数等は今もなお不明のままです。

廃墟となった街が復興するにつれ、原爆ドームの撤去を求める声が高まりましたが、それは、原爆の痕跡を消そうとした一部の動きでした。市が行った世論調査では、市民の62%が保存を望んでおり、それらを土台に粘り強く保存運動が続けられた結果、1966年に市議会で永久保存が決議されました。その時の補修に当たっては工事経費の1.5倍にあたる6900万円の浄財が寄せられ、保存への熱意が重ねて明らかにされました。そして、20数年後の再補強工事が行なわれた時には、総工費2億円のうち1億円を募金目標としたら瞬く間に4億円以上が寄せられたのでした。



動員学徒慰霊塔です。第二次世界大戦中、労働力の不足を補うため、勤労奉仕に動員され戦禍にたおれた学徒と、原爆の犠牲者を含めた約1万人の学徒の霊を慰めるために建立されました。

《学徒動員》 政府は労働力の不足を補うため、1944（昭和19）年8月に学徒勤労令を発し、中学生以上の生徒は軍需工場等での勤労奉仕が強制されました。また、11月には、空襲による延焼を防ぐため、民家などの建物を取り壊し防火地帯をつくる建物疎開作業にも、多くの生徒が動員されました。広島市内でも被爆当日、市内で建物疎開作業を行っていた国民学校高等科以上の8,000人以上の生徒のうち、約6,300人が犠牲となりました。その他に市内の各事業所に

出ていた多くの学徒も犠牲者となりました。



4日の午前中は、被団協のガイドの方に案内のもと、広島市内の遺跡、記念碑を巡りました。

『しょうがない奴なんです』(大、中で小がないので)、などなどおやしギャグを連発される方で、時々遺跡の解説なのか、何のか、戸惑うことしきりでした。『祈念式典当日は、この平和公園には、禿鷹がたくさん飛ぶんです、コンドル(混んでる)』



原爆、水爆実験が行われるとそれを実施した国に対して抗議文を広島市は出しています。そして、それをプレートにして資料館内の壁に展示。現在、599通目



珍しいT字型の橋『相生橋』が投下の目標地点とされました。当時、学生(12~16歳)は、1944年4月に文部省が出した「学徒勤労動員実施要領」によって、授業は原則として停止されていました。3、4年生は、工場で旋盤などを使って兵器を生産し、1、2年生は『建物疎開』ということで、爆弾による類焼を避ける為に建物を壊して広場を作る作業にあたっていました。(水色の矢印の地点)



かろうじて生き残った人々は、焼け焦げて血みどろになったぼろぼろの衣服をわずかに身にまとい瓦礫の街を逃げ惑った。

『はだしのゲン』で見たことのある風景が、そこにありました。一瞬の灼熱の光で焼かれると人間の皮膚は、ズル剥けになる。腕の皮膚は、手の爪で止まり、足の皮膚は、かかとで止まり、写真のようにお化けのような格好を取らざるを得なかった。自分の皮膚をズルズルと引きずり、その痛みに耐えながら水を求めて歩き回った。



広島に投下された原爆は、長さ3m、重さ約4t。約50kgのウラン235が詰められ、そのうちの1kgにも満たないものが瞬間的に核分裂し、爆心地から半径2km以内にあった建物を破壊し、焼きつくした。爆弾に備えつけられた高度感知レーダーにより、爆発の効果が最も効率よく及ぶ高さで爆発するよう設計されていました。



爆発の瞬間、爆発点の中心温度は摂氏100万度を超え巨大な火球が発生しました。火球は1秒後には最大直径280mの大きさとなり、強い熱線を放射した。その表面温度は、7,000度にも達しました。



その日も、鉄谷伸一ちゃんは、家の前の道路で大好きな三輪車で遊んでいました。8時15分、原爆で吹き飛ばされ、焼かれた伸ちゃんは、その日の夜、『水、水・・・』とうめきながら亡くなりました。原爆で破壊された鉄谷さんの家では、お父さんの信男さんは、長女の路子ちゃん(当時7歳)と次女の洋子ちゃん(当時1歳)の遺体を翌日自宅の焼け跡で発見しました。どうしても伸ちゃんの遺体を焼く気になれず、一緒に遊んでいて亡くなった近所の女の子と手をつながせ、焼け焦げた三輪車と共に庭に埋葬しました。

その後、被爆40年目に墓所に移す決心をして掘り起こし、葬式をしました。その時にこの三輪車を寄贈されたそうです。



爆発の瞬間、爆発点には数十万気圧という超高圧がつけられ、まわりの空気が大きく膨張して強烈な爆風が発生しました。その圧力は、爆心から500メートルの所でさえ、1平方メートルあたり19トンに達するという強大なものでした。このため、ほとんどすべての建物が押しつぶされ、人々も吹き飛ばされ大きな被害を受けました。



この黒い雨は、爆発後、市街地が大火災になるとともに、強烈な火事あらしや竜巻が起こり、爆発の20～30分後ごろから市の北西部地域に降ったものです。この雨には爆発による誘導放射能を受けたすすやほこりなどの放射性降下物が多量に含まれていたため、遠隔地にまで放射線の影響が及びました。



被爆者の悲惨な状況を知った赤十字国際委員会駐日主席代表マルセル・ジュノー博士は、連合軍総司令部(GHQ)に交渉して約15トンの医薬品を入手しました。9月8日に広島に入り、医薬品を広島県知事に渡し、自らも被爆者の治療にあたりました。

しかし、占領軍は機密保持の名目で広島や長崎に近づくことを禁止したためジュノー博士の救援計画は中断せざるを得ませんでした。もっと多くの命を救うことが出来たのかもしれない。



世界最初の原子爆弾によって壊滅した広島市を、平和都市として再建することを念願して設立したもの。

形態：屋根の部分には、はにわの家型（犠牲者の霊を雨露から守りたいという気持ちからこの型にした）

「安らかに眠って下さい 過ちは繰返しませぬから」

碑文については主語をめぐるさまざまな議論がありましたが、広島市は碑文の趣旨を正確に伝えるため、日・英の説明板を設置し、

「碑文はすべての人びとが原爆犠牲者の冥福を祈り戦争という過ちを再び繰り返さないことを誓う言葉である 過去の悲しみに耐え憎しみを乗り越えて全人類の共存と繁栄を願い真の世界平和の実現を祈念するヒロシマの心がここに刻まれている」と記しています。



2歳の時被爆した佐々木禎子さんは、幸いけがもなく、元気で活発な少女に成長しました。ところが、10年後の小学校6年生の時に突然白血病と診断され、8か月間の闘病生活の後、1955（昭和30）年10月25日に短い生涯を終えました。禎子さんは「鶴を千羽折ると病気が治る」と信じ、薬の包み紙や包装紙などで1,300羽以上の鶴を折り続けました。禎子さんの死に衝撃を受けた同級生たちは、「原爆で亡くなったすべての子どもたちのために慰霊碑をつくろう」と全国へ呼びかけました。やがて、子どもたちによる募金活動が始まり、全国3,100校余りの生徒と、イギリスなどの国外からの支援により、像を完成しました。



オープニングプログラム『みんなで歌おう』から始まり、開会宣言に続いて、主催者報告、来賓、各国政府代表挨拶と続きました。



各地の代表が登壇し、地域ぐるみの署名や原爆写真展、脱原発の取り組み、オスプレイの配置反対の運動を報告。

世界のNGO代表が、核兵器禁止条約の交渉開始を求める草の根の運動を紹介。



4日の夕方から、隣の会場で開催された『核兵器をなくす青年交流集会 in 広島』にも参加してきました。女性二人の司会で開会され、『核兵器をなくしたいですか？なくせると思いませんか？』といった街頭でのインタビュー風景が会場に映し出され、各地で活躍する青年の報告を聞き、続いて被爆者の中村雄子さんの証言を聞いた後、日本平和委員会常任理事の川田忠明さんのトークとなりました。

川田さんは、まず最初に、会場に『67年前の8月6日、広島にいたら、あなたは何をしますか？』と質問してきました。『原爆が落とされることをテレビやラジオで知らせる。』『信じてもらえないから、親しい人だけを連れて避難する』と様々な回答が会場から出てきました。そのあと、『現在、自分たちのできる何がなんですか。街頭で署名行動をしても、してくれない。じゃあ、そこでやめてしまいますか？うたえることをやめてしまったら周りを変えることはできない。今日、署名しなかった人ももしかしたら、明日署名する気持ちになってくれるかもしれない。』と話されていました。



大会2日目も市内の遺跡、記念碑を巡りました。

市女の犠牲者 現在の平和記念資料館～平和大通り一帯の建物疎開作業に来ていた1、2年生541人、職員10人は、全員が亡くなりました。同校では他の動員先を含め、676人が被爆死し、市内の学校では最も多くの犠牲者を出しています。

《レリーフの説明》中央で $E = MC^2$ と刻んだ箱を抱え、天使の翼をもつ制服・モンペ姿の少女は犠牲となったことを表し、両側から友のささげる花輪（慰霊）とハト（平和）に守られています。

「 $E = MC^2$ 」原爆の原理になったアインシュタインの相対性理論からとられた原子力エネルギーの公式です。連合軍の占領下、「原爆」という文字が使用できなかった当時の事情を表しています。



①(左上)『義勇隊の碑』国民義勇隊 1945年、政府は本土決戦にそなえ、「国民義勇兵役法」を制定しました。全国各地で職場・学校・地域を単位として「義勇隊」が編成され、男子は15歳から60歳まで、女子は17歳から40歳までの全国民が編入されました。川内村温井の犠牲者 被爆当時、爆心地から約600m、中島新町付近で建物疎開作業に従事していた川内村の義勇隊250人は全員が亡くなりました。そのうち温井地区はひとつの地域としては特に多い180人の犠牲者を出しました。

②(右上)「慈仙寺跡の墓石」どっしりした墓石が四方八方に飛び散った様は、原爆の爆風のすさまじさをまざまざと示す。

③(左下)『韓国人原爆犠牲者慰霊碑』亀を形どった台座の上に碑柱が建ち、その上には双竜を刻んだ冠が載せられている（「死者の霊は亀の背に乗って昇天する」という故事に倣う）。日本は、1910

年の日韓併合により朝鮮を植民地としたため、生活基盤を失った多くの人々は職を求め日本に渡らざるを得ませんでした。また、戦時中の労働力不足を補うため、強制連行や徴用によって多くの朝鮮人が日本で働かされ、敗戦時、日本には約 300 万人の朝鮮人がいたといわれています。《原爆による犠牲者》 当時広島市内には、数万人にのぼる朝鮮人がいて被爆したといわれています。

④(右下)『広島二中原爆慰霊碑』 広島二中の犠牲者 被爆当時、爆心地から 600 m、中島本町で建物疎開作業に従事していた生徒と職員は本川河岸に整列して訓示中に被爆し、ほとんどが即死、その多くは遺骨の判別も、拾い集めもできない状況でした。1999 年の新聞社の追跡調査で、306 人の被爆死が確認されています。



大正屋呉服店 この建物は、大阪に本店を持つ大正屋呉服店が、対岸の細工町から新築移転したもので、木造家屋が主流の当時としてはめずらしい鉄筋コンクリートのモダンな建物でした。1～3 階はショーウィンドウのある売場で土足が可能で、屋上からは市内が一望できました。

戦時体制へ 1943 (昭和 18) 年 12 月、繊維統制令により呉服店は閉鎖され、被爆当時は、他の耐火建物と同じく国策の統制会社である広島県燃料配給統制組合が建物を取得し、使用していました。

被災状況 爆心地から 170 m、原爆により屋根が押しつぶされ、内部も破損、地下室を除いて全焼しました。しかし、爆心地の近くでありながら爆心地側に開口部のほとんどない強固な建物だったためか、基本的形態はとどめました。被爆当日、この建物には 37 人が勤務しており、そのうち 8 人は傷つきながらも建物を脱出しましたが、たまたま地下に書類を取りに下りていた 1 人 (1982 (昭和 57) 年 6 月死亡) を除きその後全員死亡しました。

戦後の修復 戦後は早い時期に補修され、引き続き燃料関係の組合や会社が燃料会館として使用しました。

レストハウス 平和記念公園の建設に伴い、取り壊すかどうかの議論がありましたが、1957 (昭和 32) 年に広島市が買収し、東部復興事務所として使用しました。その後大幅に改修され、1982 (昭和 57) 年からは平和記念公園レストハウスとして使用されています。なお、地下室は現在も被爆当時の姿をとどめています。



『被爆地蔵』は、ガイドブックには載っていないけど原爆の熱線の酷さを伝える遺跡。表面は高熱のためいったん溶けている。

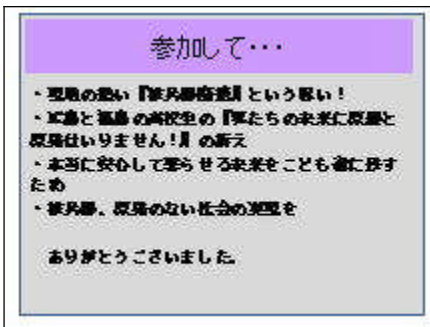
『広島城の地下通信室跡』 広島城天守閣を取り巻くように集まっていた軍の施設も南方約 1 キロ上空でさく裂した原爆によって一瞬のうちに壊滅しました。米軍の捕虜が収容されていた施設もありました。被爆直後脱出することが出来ましたが、避難の途中で絶命しました。



5日の夕方からは『全日本市民連の交流会』があり、青森県連の面々は打ち合わせ(?)どおり、おそろいの黒の『ピースメイト』のTシャツを着て参加。各地の取り組みの報告があり、地元広島県連のバンド演奏による歌と踊りもあり。大盛り上がりでした。



ホテルの前で県代表団の記念写真をとり、平和祈念式典会場へバスで移動。式典に参加?と思いきや周囲での見学ということでした。鐘作りの重要無形文化財保持者(人間国宝)、香取正彦さんの作品です。鐘の表面には「世界は一つ」を象徴する、国境のない世界地図が浮き彫りにされています。撞座(つきざ)は、原水爆禁止の思いをこめて原子力マークにし、その反対側には、撞く人の己の心を写した鏡が入れられています。



- ・今回、初めて『原水爆禁止世界大会』に参加して、改めて現地の熱い『核兵器廃絶』という思いを感じた。
- ・「フクシマ」の問題もあり、広島と福島の高校生の『私たちの未来に原爆と原発はいりません!』の訴えは、心に響きました。
- ・本当に安心して暮らせる未来を子ども達に残すためにも、粘り強く草の根の活動にこれからも取り組んでいこうと思います。
- ・世界からすべての核兵器、原発を無くすまで頑張りたいと思います。ありがとうございました。

2012平和行進

(1)6/7 合同行進と引き継ぎ集会

6月7日夕、国民平和行進(北海道-東京・太平洋コース)が八戸市に到着、三八教育会館から八戸市庁までの中心街を行進しました。青森から千葉まで行われる被災地連帯平和行進の大きな横幕を掲げ、「なくそう核兵器 放射線被害の根絶を」とアピールしました。桜木町の交差点までの道が狭く、交差点通過に時間がかかりました。2列縦隊だったので、110人超の行進がとても長く見えました。そのせいか、



市民広場到着にかなりの時間差が生じました。行進の先頭を新岡が歩きました。誘導が不十分で、さくら野前の「横断」はとても危険でした。また、スピーカーの調整がうまくいかずマイクの音量が上がらなかったため、新婦人の一山さんのアナウンスは最初だけで、後はテープを流しました。

およそ 140 人が参加して市庁前で行われた引継集会ー上十三地区から三八地区への引継ーでは、全国通し行進者の米山幸子さん、上十三地区の舛甚英文さんが行進の様子を語り、訪問した自治体では核兵器廃絶と原発ゼロへの共感が寄せられるなど、反応が変わってきていると述べました。八戸原水爆禁止の会の内田弘志会長は、事前に訪問した自治体で議長や首長の署名(核兵器全面禁止のアピール)や行進と世界大会賛助の協力があったことを伝え、明日からの行進も成功させようと訴えました。核兵器の廃絶と平和行進の成功を願う八戸市長(新婦人・平賀)、市議会議長(田端市議)のメッセージが紹介されました。最後にうみねこ合唱団のリード「で、原爆を許すまじ」を会場の全員で、心を込めて歌いました。



(2)6/7 通し行進者歓迎集会

米山さんを含めて 28 人の参加でした(二人は歓迎交流集会だけの参加)。米山さんは、行進の経過をふり返りながら核兵器廃絶への思いを語りました。また、ご自身が住む横須賀が原子力空母ジョージワシントンの母港とされていることにも触れ、平和と安全を守るために取り組み続ける決意を述べられました。「青森に来て、言葉が分からなくて(津軽だと思う)外国旅行の気分でした」との発言に爆笑しました。

うみねこ合唱団のリードで 3 曲をうたいました。「ふるさとを汚したのは誰」という曲の歌唱指導がありました。少し難しかったようです。参加各団体・個人(別表参照)の自己紹介、懇談の後、最後に「折り鶴」を歌い、1 時間半で散会となりました。

(3)6/8 行進

前日、6/8 出発前に市長との面談をと要請しましたが、議会開会中のためできませんでした。

出発集会には 27 人が参加、司法センター付近(ファミリーマートー駐車場拝借)まで行進しました。行進の先頭は青銀労組の山田さんがつとめました。最初は不慣れな感じがあったようですが、先輩の指導で上手になったと思います。六日町の工事箇所は歩道通行となりました。

事務局車(医療生協・桜田さん)は司法センターでの合流、北高岩で小倉さんを乗せ、5 台の車(表参照)で 25 人が移動しました。

孔明荘から南部町役場まで行進しました。南部町は議会開会中のため町長とは会えませんでした。賛助金とペナント記帳に協力して貰いました。前述の行進が短いので、昨年度から設定したポートピアから三戸駅(南部町内)までの行進も行いました。

三戸町の行進は黄金橋から三戸町役場まで。市日だったようでそれなりに人通りがありました。田岩食堂での昼食(25 人)の後、三戸町役場を訪問し、竹原義人町長と懇談することができました。町長室に飾られていた馬場のぼるさんの「11 ぴきのねこ マラソン大会」の絵本(絵巻)



に米山さんが大興奮しました。保育の仕事をしていたとき子どもたちにたいへん喜ばれた絵本だそうです。町長から賛助金をいただき、ペナントには自筆で記帳して貰いました。予定を5分程度超過してしまいました。

田子町の行進は Honda から町役場まで。窓口対応で賛助金に協力していただきました。ペナントは本数が不足(車に予備のペナントがなかった)したためお願いしませんでした。桜田車は田子で終了、5人が帰りました。

階上町への移動は、国道→農道→久慈自動車道を経由、予定の時刻に到着しました。賛助金とペナントに協力して貰いました。「原爆と人間」パネルの購入と活用について、米山さんが熱っぽく訴えました。階上町で初めての平和行進は、20人で旧道を役場前から道の駅まで行いました。残念ながら消防署までは人家もなく、来年はコースを再検討した方が良いという意見がありました(歩道行進か消防署からの行進に)。

(4)6/8 その後

種差海岸は宣伝カーの車窓から見学、蕪島に立ち寄り子育て中のウミネコを見ました。予想外の数だったようで、感激していました。

(5)6/9 行進

三八教育会館を9時に24人で出発しました。車は宣伝カーと桜田(事務局)、神田(生健会)、高橋(年金者組合)、阿部(全労働)、〇〇(全医労)の5台でした。五戸町行進は25人で、薬王堂駐車場から狐森まで(地図よりもかなり手前一車を置いたところ)。五戸行進が10分程度早く終了したので倉石温泉で20分程度の休憩をとりました。トイレ休憩や買い物(米山さんの朝食も)もできたので、好評でした。新郷行進は診療所から役場付近の講演まで行い、休憩なしに三戸に移動しました。昼食は前日と同じく田岩食堂(25人)でした。

三戸町役場で、生協労連コープあおりり分会(3人)、医療生協(+2人)、全司法青森 OB(4人)、職安(+1人)、立花南部町議が合流しました。通りすがりの小学生が興味深そうに見ていたため「原水爆禁止の行進だけど、一緒に歩きたい?」と聞いたらずいいたので、記念写真を一緒にとり(小山さんの左)、その後ユニバース



まで八戸原水爆禁止の会の旗を掲げて先頭を歩いて貰うことができました。十和田食肉検査所・三戸支所まで、37人の行進でした。三戸支所で、米山さんに青森県内最後のあいさつをお願いしました。

金田一温泉駅手前(橋を渡ったすぐ)からの行進は、マイクを握り、青森県代表団の行進であることを伝えました。例年のように、平和行進のステッカーが町内会の掲示板に貼ってあるのが良いと感じました。

(6)岩手への引継集会

13時55分から引き継ぎ集会を行いました。青森県側は37人(米山さんを含む)、岩手県側は30人程度でした。米山さんがあいさつした後、横断幕とリレー旗を引き継ぎました。全労働は幟の他にリュック、国土交通労組もリュックを引き継ぎました。二戸市長のメッセージ、岩手県原水協のあいさつがありました。青森県側のあいさつは、内田県原水協代表理事(八戸原水爆禁止の会会長)が行いました。最後に「震



災被災者と連帯し、核兵器のない平和で公正な世界のためにともに歩こう」との岩手・青森引き継ぎ集会
アピールを拍手で確認しました。青森県代表団は岩手県行進団を見送った後、今年の平和行進を成功裡に
終えたことを確認して散会しました。